

赤崎小学校が閉校する
という話を聞き、私は
何かをやらなければと思
いました。今まで学校か
ら聞こえていた子どもた
ちの元気な声がなくなる
と、地区が暗い雰囲気にな
ってしまふ、そんな
雰囲気を感じ止めなけれ
ばと思ったからです。そこ
で立ち上げたのが『赤崎
きらら海』です。赤崎地
区に住む人たちが集まっ
て作った団体で、現在は
総勢92人。芦北方面のイ
ベントにも出演して、赤
崎地区をPRしています。

赤崎をもっと 活気あふれる地域に—

今年の生涯学習フェスティ
バルにも参加させてもら
い、気持ちよく踊ること
ができました。
赤崎地区には伝統的
な祭りがあるのですが、
最近参加者が減ってき
ていました。そこにきら
ら海が出演させてもら
い、賑わいを取り戻すこ
とができたので、これから
も守っていけたらと思いま
す。今までは先代の人た
ちのおかげで祭りが続い
ていました。その人たちが
やってくれていなかったか
ら祭りは途切れていたか

『赤崎きらら海』名前の由来

赤崎小学校歌の一部「天草島 雲はるかに
きららきらら輝くは 不知火の海」
から取ったもの。赤崎やそこに住む
人ひとりひとりが今も、これからも
ずっと輝き続けるようにとの願いを
込めている。

もっと輝くまちづくり

本町には、さまざまな活動を通して、自
分や地域をアピールするため頑張っている
人がたくさんいます。ひとりひとりが輝け
ば、町はもっと活気あふれる、いい町にな
ります。自分のため、地域のため—。

町民の小さな輝きが
町の大きな輝きの一つ
となる



赤崎きらら海 会長

まつだしょういち
松田 昭一 さん(日当)

昭和49年11月生まれ。現在の赤崎
きらら海の会長。小学時代は赤崎地区
で過ごすも、中学に入り平国地区へ。
8年後にまた赤崎地区へ移り、今に
至る。19歳から津奈木海龍に所属し、
ハナ漕ぎ(舟の先頭)で活躍し、今で
は海龍の監督も務める。

もしれません。これから
は自分たちが祭りを引き
継いで、盛り上げていく
番ですね。

今後の目標は、赤崎
小学校の運動場で小さな
運動会を開いて、そこで
踊りを披露することで地
区をより盛り上げたいと
思っています。そうする
ことで人が集まり、地域
全体での交流の場が増え、
もっともっと活気あふれる
地域づくりができるので
はないかと思っています。

1 赤崎きらら海

伝統舞踊をアレンジした「YOSAKOI
ソーラン」。派手な法被を身にまとい、
迫力のある踊りを見せてくれました

2 健康太極拳教室

深い呼吸に合わせて全身をゆっくりと動
かす太極拳。その美しい所作に観客は見
入っていました

2



3 トランペット教室

10カ月間の練習の成果を発表。ジャズ曲
をはじめ民謡などを演奏してくれました

4 陶芸教室

陶芸教室展示品の一部。大小さまざまな
陶芸品が展示されていました

4



6



1



3



5



5 民謡四季の会（民謡教室）

三味線の音色に合わせて民謡3曲を歌い
上げました

6 津奈木中学校合唱部

津中合唱部の部員12人による美しい歌
声を観客に届けました

生涯学習フェスティバル
手をつなぎ
学ぶ楽しさ
生かす喜び

3月4日(日)、つなぎ文
化センターで生涯学習フェ
スティバルが開催されまし
た。これは、生涯学習とし
て町民講座や自主的な文
化活動に日々励んでいる人
の学習の成果を発表する
場として毎年行われている
ものです。

当日は発表部門11団体、
展示部門6団体が参加。
会場のロビーには竹細工や
陶芸、他にも押し花などが
展示され、茶道教室では
受講者がたてたお茶が来
場者に振る舞われました。
ホール内においては、「琴
友会」による大正琴の演奏
や、「コールつなぎ」によ
るコーラス、他にもフラダ
ンスやハーモニカ演奏など
が披露されました。最後は
赤崎をこよなく愛する住民
で構成された「赤崎きら
ら海」20人による迫力ある
伝統舞踊が披露され、会場
に元気を与えました。
各団体、日頃の活動や
学習の成果を発表すると、
会場からは大きな拍手が
沸き起こっていました。